

精神障害者の身体的不健康の改善に向けた行動変容プログラムの効果に関する研究

伊藤治幸¹⁾、熊谷貴子¹⁾、岩間孝暢²⁾、手塚祐美子¹⁾、清水健史¹⁾

1) 青森県立保健大学、2) 弘前医療福祉大学

Key Words ① 肥満予防 ② 介入研究 ③ Solutions for wellness

I. はじめに (または「緒言」等)

統合失調症を有する人は、早期に死亡する傾向にあることが報告されている。また、循環器疾患や糖尿病などの疾患を有する割合が高いことが知られている。先行研究から、統合失調症患者の早期死亡の原因の一つとしては肥満の有病率が高いことや乏しい食事内容、運動量の少なさが示唆されている。そこで本研究では、精神障害者の身体的不健康の予防プログラムの実施にあたり、種々の身体測定を実施した後に栄養と運動に対する教育プログラムである Solutions for Wellness : SfW (日本イーライリリー) を実施しその効果を明らかにすることとした。

II. 目的

6ヶ月のSfWの介入プログラムを実施し、体重減少効果を明らかにする。

III. 研究方法 (または「研究の経過」等)

1. 対象精神科病院および社会復帰施設に通所する統合失調症の診断を受けたBMI22 kg/m²以上の人を対象者とした。

2. 方法

1) 研究方法

Baseline時に体組成値を測定後、週1回約60分の食事&運動ガイドプログラムを2ヶ月間実施した。その後、Baseline測定から3ヶ月後と6ヶ月後に体組成値を測定し体重減少の効果をみた。Baseline測定を行った者のうちSfWプログラムに参加した対象者をIntervention group (IG)とし、プログラムに不参加の者はコントロール群としてStandard care group (SCG)とした。研究期間は、2013年11月～2015年3月である。

3. 分析方法

Baseline測定で収集したデータは単純集計を行いその特徴を把握する。SfWの効果判定については、Baseline測定時、3ヶ月測定、6ヶ月後測定における体重、体脂肪率、BMIの変化について対応のある分散分析を用いて検定を行った。

4) 倫理的配慮

研究の参加は自由意志であること、研究協力を断っても何ら不利益はないこと、研究を中断したい場合はいつでも中断できること、データは統計処理されるため個人名が特定されることはないこと、等を口頭と文章で説明し了解を得た。本研究は、青森県立保健大学研究倫理委員会の承認を得て行った。

IV. 結果および考察

対象者の特性をIGとSCGの群別に表1に示した。IG群は35名、SCG群は37名であった。ベースライン時と3ヶ月後および6ヶ月後の測定値の変化を表2に示した。IG群、SCG群共に

男性のみ有意な差がみられ IG 群では調査開始後体重、BMI が減少傾向であったが、SCG 群では体重、BMI が増加傾向にあった。一方で女性では IG 群、SCG 群共に有意な差がみられなかった。今後は、男女による介入プログラム効果の違いや体重減少に影響を与える要因について検討していく必要がある。

表1. 対象者の特性□

□	□□ Intervention group (IG) □ □□ □ n=35 □	□□ Standard care group (SCG) □ □□ □ n=37 □
年齢□	42.5 ± 12.4 □	46.2 ± 13.9 □
性別		
男性	16 (45.7)	25 (70.3)
女性	19 (54.3)	11 (29.7)
婚姻の有無		
既婚	3 (8.6)	3 (8.1)
未婚□	32 (91.4) □	34 (91.9) □
最終学歴		
中学校	8 (22.9)	7 (19)
高校	18 (51.4)	23 (62.2)
専門学校・短大	6 (17.1)	4 (10.8)
大学卒□	3 (8.6) □	3 (8.1) □
発症年齢□	24.2 ± 7.3 □	27.6 ± 9.2 □
入院歴		
なし	4 (11.4)	7 (19)
あり□	31 (88.6) □	30 (81) □
就労状況□		
□就労している□	6 (17.1)	1 (2.7)
□就労していない□	29 (82.9)	36 (97.3)

□

	Baseline Mean(SD)	3ヶ月後 Mean(SD)	P	6ヶ月後 Mean(SD)	P
IG群 男性 (n=16)					
体重	80.6 (3.9)	79.9 (3.5)	0.27	79.1 (3.2)	0.049*
BMI	28.7(3.9)	28.5(4.4)	0.196	28.1(4.0)	0.027*
体脂肪率	27.7(4.9)	27.3(5.2)	0.262	26.9(4.7)	0.02*
IG群 女性 (n=19)					
体重	67.9(2.2)	68.5 (2.5)	0.5	68.3 (2.5)	0.686
BMI	28.3 (3.8)	28.8(4.9)	0.328	28.5(4.5)	0.681
体脂肪率	40.1(4.7)	40.2(6.5)	0.876	39.2(6.1)	0.223
SCG群 男性 (n=26)					
体重	75.1(2.5)	76.2 (2.6)	0.01*	76.3 (2.5)	0.022*
BMI	26.8(3.7)	27.2(3.9)	0.014*	27.2(3.8)	0.052†
体脂肪率	26.2(5.8)	26.2(6.5)	0.882	29.6(14.6)	0.164
SCG群 女性 (n=11)					
体重	73.7(5.0)	73.3 (5.3)	0.633	74.2 (5.3)	0.73
BMI	30.3 (5.6)	29.8(6.0)	0.551	30.2(6.1)	0.746
体脂肪率	42.8(7.2)	41.5(7.2)	0.214	41.1(7.8)	0.231

* $p < 0.05$, † $p < 0.10$

BMI: Body Mass Index

VI. 文献

- 1) Wirshing D.A. (2004) Schizophrenia and obesity: impact of antipsychotic medications. J Clin Psychiatry. 65, 13-26.
- 2) 稲村雪子他：精神科患者の退院後の食生活実態調査結果と課題, 日本精神病院協会雑誌, 2(4), p107-114, 2006.

VII. 発表 (誌上発表、学会発表)

- 1) 2014 年度青森県保健医療福祉研究会